

八幡浜市誌

(市制五十周年記念版)

今後、幹線農道の連絡の整備を図るとともに南予用水事業により、畑かん施設の整備を図る。樹園地近くの山林八畝を開墾し、樹園地の組織拡大を図る。

計画

農道新設 3線 W=3m・L 2,450m・受益面積 45ha

畑地かんがい施設 多目的 312ha

樹園地造成 8ha

南予用水事業 野村ダム 建設省が一九七三(昭和四八)年度に着工した。洪水調整機能としては、ダム地点における計画高水流量毎秒一三〇〇立方メートルのうち毎秒三〇〇立方メートルの洪水調節を行い、既設の鹿野

川ダムの洪水調節と、下流の洪水流量を低減させることである。農業用水については、南予地区二市七町の樹園地五六七〇畝に、年間最大二七八〇立方メートルのかんがい用水を供給する。水道用水供給は南予の二市八町に給水する(上水道の章参照)。この多目的ダムの建設は総事業費約二八六億円をもって一九八二(昭和五七)年三月に完成した。

野村ダム事業費のアロケーション(配分)は治水五六・五%、かんがい三二・六%、水道一〇・九%である。

国営南予用水農業水利事業 南予地区二市七町の樹園地を対象に、農業用水の安定的供給を図るものである。その計画は野村ダムから取水し、法華津山脈を約六・四キロメートルにわたって横断する吉田導水路により、北宇和郡吉田町大河内地点に導水し、これより南北に延びる幹線水路によって、北は西宇和郡三崎町まで(延長約六六・一キロメートル)、南は宇和島市三浦まで(延長二四・七キロメートル)導き、計五六七三畝の樹園地に農業用水の供給を行うもので、本事業により南予地区二市七町の用水不足を画期的に解消し、農業生産基盤の改善を図るものである。

本事業の計画概要は次ページのとおりである。

受益市町と面積

八幡浜市	1,165ha
宇和島市	460 "
吉田町	1,696 "
伊方町	532 "
保内町	447 "
三瓶町	407 "
三崎町	400 "
明浜町	316 "
瀬戸町	250 "
	5,673 " (関係農家戸数 9,466戸)

主要工事

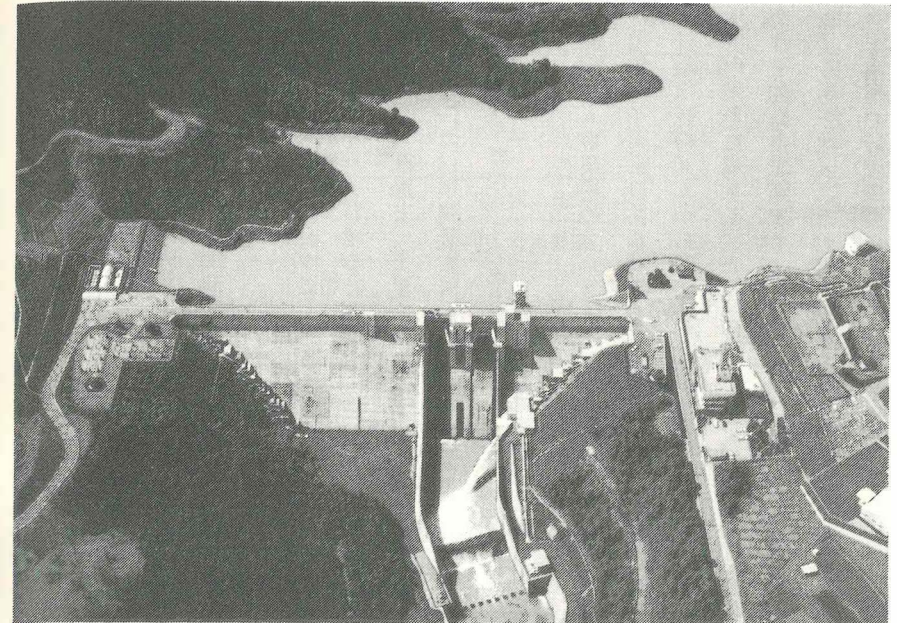
補助水源	1カ所	有効貯水量	1,278,000m ³
吉田導水路	延	長	6,378m
幹線水路	"		90,764m
			(北幹線 66,068m、南幹線 24,696m)
支線水路	11路線	延	長 54,553m
用水機場	27カ所		(幹線 2カ所、支線 25カ所)
調整池	2カ所	調整容量	239,000m ³
			(布喜川 150,000m ³ (別表のとおり) 伊方 89,000m ³)
調整水槽	22カ所		(全体39カ所のうち17カ所は吐水槽を含む)

調整池

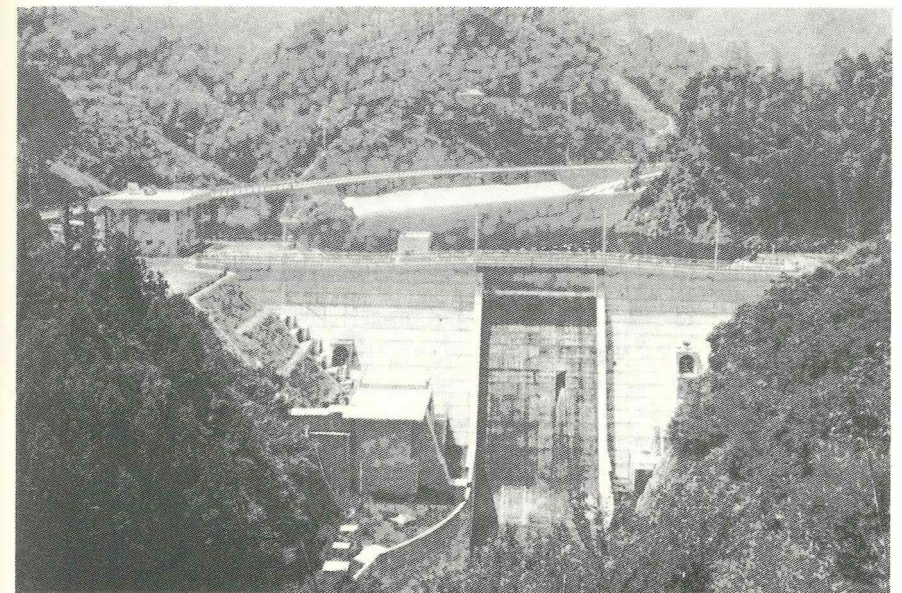
名称	布喜川調整池			位置					愛媛県八幡浜市布喜川地先	
	形式	流域面積		堤高	堤長	堤体積	基礎地盤地質	貯水量		
直接		間接	総貯水量					有効貯水量		
堰体	コンクリート動力ダム	km ²		m	m	m ³	緑色片岩 黒色片岩	m ³	m ³	
		2.34	—	33.7	110.0	25,000		197,000	150,000	
洪水吐	形式	排水量	備考	取水施設	形式	取水量	放流施設	形式	放流量	
	堰頂越流型	m ³ /s	—		堰体併設	m ³ /s		放流施設	堰体併設	—
		158			併設	1,968				

この事業は一九七三(昭和四八)年度から全体設計にかかり、一九七四(昭和四九)年度から工事に着工したが、一九八三(昭和五八)年度までの進捗状況を見ると、野村ダム取水塔、吉田八幡浜間の隧道、布喜川調整池が完成し、順次保内町以西に工事が進められている。

県営畑地かんがい排水事業 この事業は国営南予用水農業水利事業により、野村ダムから導水する農業用水の受益地に、末端



野村ダム全景



布喜川調整池

森林資源の現況(すべて民有林)

区分総数			立 木 地							
			総 数			人 工 林			天 然	
			総 計	針	広	総 数	針	広	総 数	針
総 数	面積	5,083	4,925	3,117	1,808	3,103	3,103	-	1,822	14
	材積	732	732	578	154	575	575	-	157	3

資料:「資源構成表」昭和60年1月現在

畑地かんがい排水施設を実施するものである。当市川上町では、一九七五(昭和五〇)年に地区内の樹園地を対象に、自動化による多目的利用の末端畑地かんがい排水施設の実施計画に着手した。地区内の農業生産基盤の改善、営農労力の省力化及び農薬害による健康障害の防止などによって、農業経営の合理化を図るためのモデル地区として実施されたもので、昭和六二年度から、野村ダムから通水ができ本格的に稼働することとなる。

計画の概要

林 地	竹 林	無 立 木 地			更新困難地	備 考 単位:面積ha 材積 1,000m ³
		総 数	伐採跡地	未立木地		
広	90	59	-	59	9	
1,808	-	-	-	-	-	

受益地 川上町の樹園地二五九

杉(三一四戸)

用途 かんがい、病虫害防除、

施肥

施設計画

営農組織体系を加味して、地区を一一のローテーションブロックに分割し、単独に運転、制御ができるように各ブロックに基地(薬液混合)及び指令室(制御)を設ける。

幹支線水路、総延長六五七六⁴・揚水用ポンプ・タービンポンプ三台と渦巻ポンプ五台

その他の地区の事業実施状況は、西南地区(真穴、舌田、栗野浦、横平、八代)では昭和五七年度から、北地区(向灘、津羽井、日土)では、昭和五八年度から事

業に着手しており、順次工事が進められてゆくことになっている。

なお、この事業の財源内訳は総事業費の五〇%が国庫補助金、二五%が県補助金、二五%が受益者負担金となっているが、八幡浜市ではこの事業の重要性と農業の振興をはかるため受益者負担金の軽減をはかるため、その二分一を市が助成することとした。

農水産物輸入 日米、日欧間の貿易摩擦は、アメリカ及びEC諸国の対日貿易収

自由化問題 支が、一九八一(昭和五六)年にそれぞれ一八〇億ドル・一〇〇億ドルという大幅な赤字となったことから起こった。特に日米間では極めて深刻なものとなった。アメリカの基幹産業である自動車産業が、日本車の集中豪雨の輸出によって不振となり、さらにはアメリカ全体の経済成長率を停滞させ、インフレ・失業・財政難をもたらした。そのため、アメリカは、対日貿易収支の改善を大きく取りあげ、アメリカ産のオレンジ・牛肉などの対日輸出をはかった。しかし、その後も改善されず、今日では、対日貿易赤字は約六〇〇億ドルに達し、しかも為替相場は一ドル、一六〇円内外となり、主食の米さえも輸入の自由化を求めている状況である。このため、わが国の農業はじめ諸産業は大きな圧迫をうけている。

林 業

昭和五九年の土地の利用状況は上表のとおり、森林原野五〇・八三⁴で、市の総面積の五三・五%を占めている。

森林資源の現況は上表のとおり、人工林が三一・〇三⁴で全体の六一・〇%、蓄積量は五七万五千立方⁴、七八・六%である。



川上地区かんがい状況

八幡浜市誌
(市制五十周年記念版)

昭和六十二年三月三十一日発行

編纂 八幡浜市誌編纂会
発行 八幡浜市

印刷 豊予社
八幡浜市松柏